

平成 27 年度

B 日程 入学試験

国 語

注 意

1. 試験開始の合図があるまで，この冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は 45 分です。
3. 問題は，1 ページから 13 ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し，足りないページがあったら申し出なさい。
4. 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。
5. 解答用紙には，受験番号・氏名を記入しなさい。
6. 試験が終わった後，問題冊子・解答用紙とも回収します。

① 次の1～8の——線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

1 雨で試合の開始がノびた。

2 休み中もキリツ正しい生活を送ろう。

3 山のイタダキで美しい日の出を見る。

4 センモンのな書物を読む。

5 友達にカンカされて読書をするようになる。

6 その都度質問してください。

7 先祖の手がらを末代まで言い伝える。

8 遠い町までのお使いを不承不承引き受けた。

② 次の1～4のそれぞれの——線の漢字のうち、他とは意味が異なるものをそれぞれ一つずつ選び、記号で書きなさい。

1 ア 白|日 イ 告|白 ウ 自|白 エ 独|白

2 ア 図|書 イ 図|案 ウ 製|図 エ 意|図

3 ア 処|方 イ 立|方 ウ 方|法 エ 方|便

4 ア 弁|舌 イ 弁|護 ウ 花|弁 エ 答|弁

3 次の詩を読み、下の問いに答えなさい。

春の夜のしなさだめ

永瀬清子
ながせきよこ

① 初春の夜のしなさだめ
娘たちは久々に出あつて

たのしいしなさだめにふけていた。

まず親類の叔母さんたちが（注）
槍玉にさがり

T叔母さんが一番若々しく

美しいのだときまった。

父はかたわらでだまってきいていたが、その時

「T叔母をよく見るとシワがあるよ

② つくろっている事がよくわかるんだ——」そこで一区切おいてから

「でもうちの八だけは嫁に来た時と③A 今もちつとも変わらんねえ」

としごくまじめに発言した。

この時、母八重野はもう十九才はとうに過ぎていて

③B いまや五十いくつ。

娘たちはあつけにとられ

しばらく声をのんだが

ついに一斉にふきだし笑い声をあげて④ぶったおれた。

五十いくつの母は色白からず小じわもあり

1 — 線①「たのしいしなさだめ」とありますが、どういうこと

ですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

A 親戚のどの夫婦の仲が一番よいのか相談すること

I 自分たちの中でだれが一番美しいかと比べ合うこと

U どういう女性がすばらしいと言えるのか相談すること

E 母が一番美しいと言えるのかどうか話し合うこと

O だれが一番美しいのか、それぞれの印象を話し合うこと

2 — 線②「つくろっている」とありますが、どういうことですか。

次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

A 自分が一番美しくなるために整えること

I 自分を美しいと思おうとしていること

U 美しくなるためにお金をかけていること

E ありのままよりもよく見せようとする

O 年齢によるしわを認めようとし

3 — 線③A・B・C・Dの中で一つだけ異なる時間を表している

ものがあります。A・B・C・Dの中から一つ選び、記号で書

きなさい。

身なりもじみで

娘たちに美しいとはどうしても思えないのだ。

それでさんざん笑って涙をふいた。

父はまじめ人間、うそ云わぬ人。

三十年も前の母の姿を

③C いまもそのまま抱いているのを

ひどく笑って娘たちの春の夜はすぎた。

母はその時、だまってただほえんでいたつけ。

このあと母の若かった時の写真が

ふとみつかった。

髪を②桃割れに結い③鹿の子絞りの帯揚げをしめていて

母なき娘のどこかさびしげなその姿。

④夢二の絵のようで

お父の胸にはこのような姿が何十年も生きていたのか。

③D 今となつては⑤かなしい なつかしいその春の夜の思い出。

〔春になればうぐいすと同じに〕思潮社 による

注1 檜玉にあがり Ⅱ 多くのものの中から話題にのぼって

注2 桃割れ Ⅱ 昔の若い未婚女性の髪型の一つ

注3 鹿の子絞りの帯揚げ Ⅱ 帯の形を整えて結ぶときに使う絞り染めの布、鹿の子絞りはかわいらしいデザインとされる

注4 夢二の絵 Ⅱ 美人画を得意とした画家、竹久夢二の絵

4 — 線④「ぶったおれた」とありますが、このときの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 年老いた父が、母の本当の姿を知らないことにおどろく気持ち

イ まじめな父が、母にだけはお世辞を使うことにおどろく気持ち

ウ 母への愛情を初めて打ち明けた父におどろく気持ち

エ 老いて美しくなくなった母も愛し続ける父におどろく気持ち

オ 母だけは昔と変わらず美しいと思っている父におどろく気持ち

5 — 線⑤「かなしい なつかしいその春の夜の思い出」とありますが、どういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ

選び、記号で書きなさい。

ア 長年寄りそってきた両親をその時は深く理解することができず、笑い話にしてしまった自分たちのことを思い出している。

イ 仲が良かったころにはもうもどれずに離れ離れになった家族が、仲良くだんらんしたその時を思い出している。

ウ 若かったころの母の美しい姿を思い出し、今はもう見るかげもなく年老いてしまったことを悲しく思っている。

エ 老いた父の思いちがいを種としてその時は笑いあったが、その深刻さに気付かなかったことをくやんでいる。

オ 母は若いころ美しかったにもかかわらず、自分たちにはそのような美しさを理解できなかったことを恥ずかしく思い出している。

④ 次の文章は、主人公のエリザベスが、今年の夏休みに、画家で一人暮らしをしているおばあちゃんの家一人で泊まりに行くようにと両親に言われ、悩んでいる場面です。これを読み、後の問いに答えなさい。

エリザベスは、雨の日に、よく屋根裏部屋へあがってみた。そこは、おばあちゃんがこの農家に住んでいたころ、^(注1)アトリエに使っていた場所だった。床には古ぼけたトランクが二つ、北に面した大きな窓の近くにはこわれた^(注2)イーゼル、壁には立てかけられた数点の^(注3)キャンバスがあった。こわれかけたついたてには、鉛筆のスケッチ画が、まだ画びようで留めてある。一枚は、幼いころのエリザベスを描いたものようだった。見るたびに、わたしかなと思ったが、もしかしたら、だれでもない、ただの幼子かもしれないかった。

キャンバスの中には、完成した絵が一枚あった。冬の風景画だ。二羽のガラスがへいに止まり、そのへいは、地平線まで続く雪景色の畑をななめに横切っていた。雪におおわれたトウモロコシの刈り株が並ぶ、まっ白な畑だ。エリザベスはこの絵が好きで、おばあちゃんにもそう言った。

「冬に、窓から見える景色そのまんまだもの。」

① 「見てわかるものしか、好きじゃないの？」

おばあちゃんは、興味津々といった顔つきでたずねた。

エリザベスは、少し考えてからこたえた。

「見てわからないものを、どうやって好きになるの？」

「どうして、何もかもを好きにならなきゃいけない？」

おばあちゃんに言われ、エリザベスはだまりこんだ。

おばあちゃんは、いつものおだやかな声で続けた。

「つまりね、物事に関心を持ってないかってことよ。好きかどうかはおいといで。」

ある年のクリスマス、おばあちゃんは、エリザベスに小さな真珠の指輪をプレゼントしてくれた。おばあちゃんが、パリの^(注4)うらぶれた通りで見つけたものだった。

「一週間ももつのかしら、と思うような店だったわ。この辺の町にも、同じような小さな店がいくつかあるけれど。窓辺に^(注5)カメラが一、二個、ありふれた金のネックレス、そして、その指輪が置いてあったの。クローゼットほどの広さもない店だった。でも、中に入ったら、壁じゅうに美しい栗毛の競走馬の写真がかかっていたわ。店の主人の持ち馬で、二つのレースで優勝したことが

あるんですって。馬の名前はスーザリン。へ領主^レという意味よ。ご主人は、その馬を世界でいちばん愛^{かれ}していた。彼は、馬を養うために店を開いていたの。自分自身のためではなくね。出身は^(注6)アルジェリアだと言っていたわ。⁽²⁾ エリザベス、その指輪は、そういったことすべてと結びついているのよ。あなた、アルジェリアがどこにあるか知ってる？」

「だいたい。」

「だいたい、なんて場所はないの。」

おばあちゃんは、すぐさま家にある地図帳を引っ張り出してきて、エリザベスにアルジェリアの場所を示し、植民地や革命について少し話した。おばあちゃんは、自分の興味のあることについては、まるで生きた百科事典だった。

しかし、音楽のことは分野にかかわらず、あまり知らなかった。本に関しては、おばあちゃんの読むものはすべて、詩か、画家の日記や^(注7) 書簡集だった。「なぜ、人が物語を好むのかわかるわ。」と、おばあちゃんは言った。でも、小説は数ページめくっただけでほうり出し、窓やドアのところへ行つて外をながめてしまうのだ。^(注8) カムデンのアパートの窓から見えるのは、空を飛ぶ鳥、木の枝、通りにいる観光客たち——立ち止まって、ぼおつと辺りをながめたり、しりをかいたりしている人たちだ。

「詩が語るのは、人の内にあるかくされた真の生命のかがやきよ。詩は、あこがれ、希望、悲しみについて教えてくれる。」

おばあちゃんは、そう話してくれたことがある。そのときのおばあちゃんの言葉や、熱っぽい話し方には、おさえこまれそうな迫力^{はくりよく}があった。⁽³⁾ エリザベスは思わず、何か反抗^{はんこう}的に叫^{さけ}びだしそうになった。

以前、おばあちゃんは、ヴィンセント・ヴァン・ゴッホという画家が弟にあてた手紙をいくつか読んでくれた。エリザベスには、お金がないとか、絵の具を買いいたいとか、そういうことばかり書いてあるように思えた。読み終わると、おばあちゃんはエリザベスにたずねた。

「あなたはどうか考える？ 自分が飢え死^うにしそうだってことには、ふれていないのよ。気がついた？」

どう考えていいかわからなかった。が、ほんの少しだけ、⁽⁴⁾ ぞくぞくするよううれしさを感じた。おばあちゃんがこんなふう^④に話しかけてくるときは、いつも、そう感じた。自分も、おばあちゃんみたいに話せたらな、と思った。

こうしたやり取りの最中、おばあちゃんは、自分の関心ごとに向けるほどの注意を、エリザベスに対してはらっているように感じられなかった。学校や勉強のこと、大人になったら何になりたいかというようなことを、おばあちゃんは一度も聞いたり^⑤はしなかった。正直なところ、エリザベスは、そのことに^⑤ほっとしていた。

予測のつかないところや、ささいなことに首をつっこまないとところなど、おばあちゃんといるのはそれなりに楽しい。だけど、

⑥ 今年の夏休みをおばあちゃんのところで過ごすのは、絶対にいやだった。

家を追い出される理由はわかつている。ステファン・リンゼイ・ベネディクトのせいだ。

ステファンは、今日七月十九日で生後一週間になるエリザベスの弟だ。父さんも母さんも、神聖なものでも眠^{ねむ}っているかのよう^{よう}に、ゆりかごのそばにはりついていて。エリザベスは、耳ざわりな子ネコのような赤^{あか}ん坊^{ぼう}の泣き声が耳について、ひと晩じゅう眠れなかった。

父さんも母さんも、四十歳^{さい}を過ぎていて。いい年をして、赤ちゃんが生まれるだなんて。弟がエリザベスの年になったころ、二人は、つえをついているのではないだろうか。

母さんはほおをそめ、ほほえみながらエリザベスに言ったのだ。

「ほんとうに予定外だったの。でも、人生ってそんなものよ。」

そして、^(注9)産着^{うがき}にくるまれた丸くて赤い顔を胸におし当てた。

友だちのナンシーに、「母さんに、赤ちゃんができたの。」と打ち明けたときは、はずかしかった。言葉がうまく出てこなかった。ナンシーは話を聞くと、まじめくさった顔でこう言った。

「そのくせ、大人って、わたしたちのこと無責任だって言うのよね。」

「むかつくわ。」

思わず言ってしまう、胸がちくりと痛んだ。

弟のステファンが家族にくわわった今、父さんと母さんに対して腹立たしく思っていることを、ほんとうは、声をはりあげて言いたかった。

「わたしがじゃまなんですよ！ あのちびのことだけかまっていたいから、わたしが家を出るのが待ちきれないんですよ！」と。

エリザベスがいなくなったら、父さんも母さんも、好きなだけ赤ん坊に熱中できる。かわいがり、あまやかすことができる。赤ん坊が注意を引こうとして、泣きわめきながら壁紙^{かべがみ}を破るようなことがあったとしても、あらあら、まあまあとやさしく言っ^いて、ばかみたいのにこにことほほえんでいるのだろう。

(ポーラ・フォックス／清水奈緒子訳『西風がふくとき——おばあちゃんとの日々——』文研出版^{ぶんけんしゅつぱん}による)

- 注1 アトリエ Ⅱ 絵を描くための仕事部屋
注2 イーゼル Ⅱ 絵を描くときキャンバスを立てかける台
注3 キャンバス Ⅱ 油絵を描くための布
注4 うらぶれた Ⅱ みすばらしく、さびれた
注5 カメオ Ⅱ 貝殻などに浮彫うきぼりをした装飾品
注6 アルジェリア Ⅱ フランスの旧植民地で、独立後に社会主義革命をおこなったアフリカ北西部にある国
注7 書簡集 Ⅱ 手紙集
注8 カムデン Ⅱ アメリカ最北東部メーン州の港町
注9 産着 Ⅱ 生まれた子に初めて着せる着物

1 — 線①「見てわかるものしか、好きじゃないの？」とありますが、このときのおばあちゃんの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア エリザベスに、身の回りのことだけでなく世界全体に広く興味を持つてほしいと考えている。
イ エリザベスとの討論を楽しみ、なんとかして言い負かしてやりたいと意気こんでいる。
ウ エリザベスが目の前にあるものしか好きになれないのはいけないことだと考えている。
エ エリザベスに、目に見えるものだけでなくこの世界全体を好きになってほしいと願っている。
オ エリザベスが何を好きなのかを知った上で、お説教をしてやりたいと考えている。

2 — 線②「エリザベス、その指輪は、そういったことすべてと結びついているのよ。」とありますが、このときのおばあちゃんの気持ちとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア アルジェリアをはじめ様々なことについて深い知識を持っていることを教えたいと思っている。
イ エリザベスにも自分と同じようにこのめずらしい指輪を好きになつてほしいと思っている。
ウ この世界の出来事と向き合う際にはいつも、背景をも含めて深く感じてほしいと思っている。
エ 指輪をうらぶれた店で買ったことに引け目を感じ、指輪にまつわる話で価値を高めたいと思っている。
オ 幼くてまだ何も知らないエリザベスに、少しでも多くの教養を身につけてほしいと思っている。

3 — 線③「エリザベスは思わず、何か反抗的に叫びだしそうになった。」とありますが、その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 音楽についてよく知らず小説も読み通せないようなおばあちゃんに、えらそうにお説教をされたことが腹立たしかったから
イ つまらないものにばかり関心を持つ変わり者のおばあちゃんの言葉だと思いと、反感を覚えすにはいられなかったから
ウ 自分の好きなことはかりを一方的に語るおばあちゃんが自分への思いやりを欠いていることに対し、不満を感じていたから
エ おばあちゃんが情熱的に語ることによって、おばあちゃんの好みをおしつけられているような息苦しさを感じたから
オ おばあちゃんが好き勝手に自分の考えを述べるのをずっと我慢して聞いているのは、つまらなくていやなことだったから

4 — 線④「ぞくぞくするようなうれしさ」の説明としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア おばあちゃんに一人前の大人としてあつかうてもらったことをうれしく思う気持ち
イ 大人の複雑な精神世界をおばあちゃんによって垣間見せられたことによる興奮
ウ 他の人が気付かないことをおばあちゃんと分かち合えた幸せな気持ち
エ いつもは冷たいおばあちゃんがめずらしく優しくしてくれたことがうれしい気持ち
オ おばあちゃんと知的な趣味の話をすること、大人の仲間入りをしたように思える喜び

5 — 線⑤「ほっとしていた」とありますが、その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア もっと勉強するようにとお説教されるのはいやだから
イ 自分のことについておばあちゃんのように熱っぽく話せないから
ウ 自分に自信がないので、あれこれ聞かれるのは苦痛だから
エ 自分のことよりもおばあちゃんの話の聞いたかったから
オ 自分について余計な関心を持たれるのは苦手だから

6 — 線⑥「今年の夏休みをおばあちゃんのところでも過ごすのは、絶対にいやだった」とありますが、その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 皆がかわいがっている弟を、自分も一緒にかわいがりたいと思っていたから
イ 弟をかわいがるために自分が追い出されてしまうのは我慢ならないから
ウ 弟をひいきする両親がこれ以上の不公平をしないように、見張っていたいから
エ 自分の考えを一方的におしつけるおばあちゃんと長く過ごすのはつらいから
オ 弟をあまやかしてばかりいる両親のだらしない様子を苦々しく思っているから

7 次の文の中から、この文章の内容と合っているものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア おばあちゃんと過すごす日々は刺激的しじきてきで楽しい一方、そのわがままに振り回まわされてしまったために、エリザベスはこの夏休みをおばあちゃんの家で過すごすのはいやだと思っている。

イ まだ幼こくて自分で物事を考える習慣のないエリザベスに対して、おばあちゃんは決して子どもあつかいはせずに、立派な教養ある大人として振ふ舞まうことを要求している。

ウ 芸術を通して心のきずなを育はぐんだおばあちゃんとエリザベスだが、その分、水面下では激しくぶつかりあい、エリザベスは一人でおばあちゃんの家泊とまりまりに行くのは気が重おもいと感じていた。

エ 弟が生まれることを友だちに打ち明けた時、つい友だちに合わせて必要以上の家族の悪口を言ってしまったエリザベスは、わずかに罪悪感を感じていた。

オ エリザベスがおばあちゃんの家に行けば、両親は思う存分弟をかわいがることができるので、エリザベスがいなくなることを心待ちにしている。

5 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

ここでひとつ、私の知っているミュージシャンについて話したいと思います。

もうずいぶんまえですが、ある(注1)ライブバンドが(注2)メジャーデビューすることになりました。(注3)プロダクションは、あの(注4)サザンオールスターズも所属するという有名芸能プロダクションでした。

① おめでたい話じゃありませんか。音楽をやっているひとなら、いいなあとうらやましがるにちがいありません。

なのに、このグループのメンバーと、あるときトークショーで知りあって話をしていたら、なんだかどうも悩なやんでいるようです。

なぜだと思います？

② 聞くと、自分たちの好きな音楽ができないからだということです。

音楽でメジャーデビューするというのは、CDが、そうですね百万枚くらい売れないとダメな世界らしい。つまり百万人以上のひとびとにいいなあと反応してもらわないとやっていけない世界です。

でも人間ってまちまちでしょう。赤色が好きなひとあれば黄色が好きなひともある。いいなあと思うものは、ひとによってバラバラ。そういう多種多様なひとびとが共通していいなあと思えるような音楽を提供しないとCDは売れない。一部のひとウケではダメなのです。

ところが、いまお話ししているメジャーデビューしたグループは、少人数の^(注5)コアなファンがあつまるライブハウスで活躍していました。もともとは一部ウケの世界で、自分たちの気に入った音楽だけを自由にやっていた。それがスカウトされて、もともととおおぜいのひとびとにアピールするメジャーな世界に入ってしまった。

メジャーな音楽業界では、できうるかぎりおおくのひとびとに受け入れられる音楽作りが要求されます。好きな音楽を自由に演奏して、一部のひとびとに熱狂的にウケたらそれでOK、という姿勢は通用しないのです。おおぜいにウケなければ意味がない。そしてそのためには、自分たちが本来やりたかった音楽、たいせつに守ってきた思いさえも、きり捨てなければなりません。

このグループは、自分たちのこれまでやってきたたいせつな音楽、かぎられたひとびとのためのコアな世界と、もつと広くだれにでもアピールする音楽世界のあいだで、自分たちって、ホントはなにをやりたいのかと悩んでいたのです。

このように芸能界では、基本的にはだれにでもアピールするのでなければなりません。そうでないとCDは売れないし、おおぜいのお客を呼ぶこともできないし、テレビの視聴率^{しちやうりつ}をかせぐこともできません。

では芸術という世界はどうでしょうか。私は、芸術という世界は芸能界とは正反対にあると思います。

考えてもみてください。^③ピカソだつてゴッホだつて、さいしよ世間は「なんだこりゃ」とあざ笑っていたといってもいいでしょう。ゴッホなんて、生涯^{しやうがい}で売れた絵はたった一枚だったといいます。メジャーどころか、思いつき^(注6)マイナーだった。

つまり、ウケるかウケないかとは無関係に、やらねばならないと感じる世界を持っているのが芸術です。画家が描いた一枚の絵は、それをほしいと思つたたったひとりの人間のもののなのです。極端^{きくたん}な言いかたをすれば、^④たつたひとりにウケたら、それはそれでいいという世界なのです。

絵は一枚しかありませんから、百万人のひとがほしいと思つても、複製画だったら可能かもしれませんが、本物の絵はだれかたつたひとりの手に渡れば、ほかのひとびとはもうそれを家に飾^{かざ}るなんてことできないでしょう。ですから私はこうとらえたい。

芸能とは、

⑤A

芸術とは、

⑤B

あるいはこう言いかえてもいいかもしれません。

芸能とは、

⑤C

芸術とは、

⑤D

両方ともかんだんではありません。ウケたらいいんだつたら、なんだか芸能界のほうが楽しそうですね。でも、そこそこウ

ケたくらいでは、すぐにお払い箱はらばこですよ。ぜったいにウケないと意味がありません。お笑いタレントはぜったい笑ってもらわな
いと失格ですし、歌手はCDが売れなければ、いくらこれがいい音楽だと主張しても、そんな甘い言あまいわけはとおりません。

そして、おおぜいのひとびとに笑ってもらったり聴きいてもらったりしたいなら、自分が個人的におもしろいと思う笑い、自分
はこれが好きだと思ふ音ではなく、観客や聴きき手がおもしろいと感じ、いいなあと感じられる世界を提案しなければ成功しません。
つまり^⑥芸能界で成功するためには、自分のたいせつに思う世界ですら捨てるべき覚悟かくこがないと生きていきません。

芸術のばあいは、ぎやくに自分の好きなことをおしとおさないといけません。ウケるとかウケないとかとは無関係に、自分が
やるべきだと思つたことをやりとげる。これはこれでなかなか孤独こどくな戦いですね。

芸術も芸能も、ありようはちがっていても、両方ともたいへん覚悟のいる仕事だという点ではおなじなんです。

(森村泰昌『美しい』^{もりむら やすまさ}ってなんだろう?)^{りろんしゃ}理論社 による)

注1 ライブバンド Ⅱ 生演奏をすることを活動の中心としている音楽グループ

注2 メジャーデビュー Ⅱ 大手のレコード会社から売り出すこと

注3 プロダクション Ⅱ 所属する芸能人の仕事を計画したりする会社

注4 サザンオールスターズ Ⅱ 有名な音楽グループの名前

注5 コア Ⅱ 一部の、熱烈ねつれつな

注6 マイナー Ⅱ あまり知られていない

1 — 線①「おめでない話じゃありませんか。」とありますが、その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 有名プロダクションなら生活を保障されたようなものだから

イ だれにでもつかむことのできるチャンスではないから

ウ メジャーデビューというあらゆるひとびとのあこがれをかなえたから

エ 好きな音楽を演奏して活躍していきえると思つていたから

オ メジャーデビューしてからが本格的な音楽活動の始まりだから

2 — 線②「自分たちの好きな音楽ができない」とありますが、その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア ホントはどんな音楽をやりたいのか分からなくなったから
- イ トークショーに出たり、音楽以外の宣伝活動もさせられるから
- ウ 百万人以上のひとびとにCDを売るのは不可能なことだから
- エ これまでやってきた音楽のレベルはライブハウス以外で通用しないから
- オ できるだけおおぜいにウケる音楽の提供が求められているから

3 — 線③「ピカソだってゴッホだって」とありますが、どのような人の例として挙げられていますか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 仕事もろくにせず、自分の好きなことだけを一生していた人
- イ 絵の技術がみがかうとせず、気ままに絵を描きつづけた人
- ウ 人生をかけて、当時の人の好みに合う絵を追求した人
- エ 当時の人の好みに合わせず、自分の信念をつらぬいた人
- オ 世間に受け入れられようとしたが、認められなかった人

4 — 線④「たったひとりにウケたら、それはそれでいいという世界」とありますが、どのような世界のことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 多くの人にアピールしたくてもできない世界
- イ 世界に一つしかないものをありがたがる世界
- ウ 自分のめざすことをつきつめようとする世界
- エ 孤独な戦いを続けられ、死後に認められる世界
- オ 人のためにやらねばならないことを進んで行う世界

5 次のア～エはそれぞれ ⑤A ⑤D のどれかにあてはまります。「芸術」について書かれた ⑤B ⑤D に

あてはまる表現としてふさわしいものを二つ選び、記号で書きなさい。

ア 深く行きつくことがめざされている世界である

イ ひとびとに広く行きわたることがめざされている世界である

ウ ぜったいにウケないといけない世界である

エ ウケなくてもやらねばならない世界をもつことである

6 —線⑥「芸能界で成功する」とありますが、そのために必要なものは何ですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で書きなさい。

ア おおぜいの求めるものを提供しようというかたい意志

イ 自分のたいせつな世界を捨てて人にアピールしたいと願う情熱

ウ おおぜいにウケる質の高いものを提案できるような柔軟な発想

エ 甘えた言い訳をせず、業界のためにつくす姿勢をつらぬく覚悟

オ 観客や聴き手の要求に合わせて内容を切りかえられる器用さ

7 次の文の中から、この文章の内容と合っているものをすべて選び、記号で書きなさい。

ア 一部の人を相手にするより、おおぜいにアピールする可能性のある仕事の方が意味がある。

イ 自分のたいせつな世界とどうつきあうかが異なるので、芸術と芸能が共存するのは難しい。

ウ 芸能の世界ははなやかなだけではなく、必ず多くの人に評価されなければならない厳しい世界である。

エ メジャーデビューしたグループには、自分たちのたいせつな音楽とファンを守る覚悟がなかった。

オ 一見つらそうな芸術の世界も、世間の評価が得られなくても好きなことができるので楽しい。

(問題はこれで終わります)

